滿州日報

[illegible]市元[illegible]六吊百至六三吊二百
紅糧價錢五吊四百文至五吊
糸毬共上車三十餘輛
遼陽共來七十餘輛
元荳六吊九百至六吊八百

一七九牛紙 仝 一圓八十錢
一連紙 一連 一圓
一フールスカツプ 仝 四圓
一中判洋紙 仝 二圓
一半紙野紙 百枚 二十錢
一卷紙 四十枚續 十四錢

一仝三[illegible]具 一圓五十錢以上[illegible]
一椅子 一圓五十錢以上四圓五十錢
一簞笥 三十圓以上三十五圓
一卓子 四圓五十錢以上十三圓五十錢
一卓子掛 六圓以上十二圓
一廚房用戸棚 七圓五十錢以上十圓

一縞毛布 一枚モノ 四圓以上六圓五十錢
一長火鉢 八圓以上十一圓五十錢
一箱火鉢 二圓以上三圓五十錢
一宜德火鉢 一對 六圓以上九圓

○報價目
每月收取八角代賣所及送報人并無分毫加增
○告白刊例
一行五號二十一字起碼登一日者每行二角每登十日行一角五分登月者每行每日一角登長年者價當面議從減 每張四百文

Rates for Advertisement 20 cts. per line.
Payable in Advance. Postage Included.
The Manchuria Daily Report Office.
Newchwang.
Telephone No. 29.

告料 一[illegible]ケ月以內[illegible]錢十五仙乃至十[illegible]
一長期連揭減價面議
發行所 淸國營口中盛街 滿洲日報社 (電話二九番)

告示

大日本帝國營口監督與倉
出示曉諭事照得貨財爲商業發達爲之資幣制實貿易繁興之具故必法歸畫一乃可通行更須製造無訛始堪信用熟考當埠幣制雜亂紛繁貴賤低昂莫知所向故有愛英洋錢有好人龍錢有擇大邊錢者他若抹銀錦寶小洋錢等製造不同嗜好各異不可名爲流通貨幣又不適爲公認法貨至於軍用手票大軍所用庶民咸悅今南滿洲到處通行當埠亦交易稱便然自平和克復後逐漸收回代以橫濱正金銀行牛莊支店鈔票照東總督告示確有明文橫濱正金銀行所發鈔票其持至該銀行兌換需用者立將品質九成色之銀圓兌換故自今未盡收回之手票與鈔票銀圓皆爲當市之流通貨幣用此等銀錢充兌買賣存欠名賬目實爲公認法貨其他貨幣除合意交易外不爲公認自示之後仰闔埠人等一體遵照勿違特示

右諭通知

明治三十九年二月

特別廣告

▲資本金貳千四百萬圓
▲積立金一千零拾四萬圓

本支店出張所
橫濱 神戸 東京 長崎 大阪
倫敦 里昂 紐育 桑港 布哇
孟買 香港 上海 天津 北京
大連 旅順 奉天 芝罘 鐵嶺

橫濱正金銀行牛莊支店
電話 十番 支配人室 百八番 事務室

賣捌並廣告取次所
大連市播磨町三百三十八號 日華運輸公司
大連市盤城町四十九番地 岡野新聞舖
奉天大南門內景祐宮胡同 全泰號
遼陽、遼陽倶樂部 谷口今朝太郎

三井洋行
啓者 本行開創在中外通商各埠已有年歷所售棉紗 棉布 火柴 煤炭糖 海參等各貨均皆物美價廉名馳遠近如蒙各商光顧請駕臨是荷者
●精製白砂糖新入荷物あり
倉庫部
今回倉庫所在地(青堆子精搗場上隣り河岸)の取扱所に電話を架設致し候間貨物の出入其他倉庫に關する一切の件は仝所へ御照會被下度願上候 (電話百二十八番)

宅合名會社分莊
本號前在營口東營元神廟街自造日本酒澤龜印并一切雜貨其名營己傳播於滿洲全地矣今又擬在西營子老爺閣街同盛德院內分設支店一所發賣綿絲綿布火柴絲布絨衣荷標布手巾花巾東洋緞子洋燭鐘表貨物俱全而價値尤格外從廉且貴客賜顧時另派有一華人宋厚田氏細心接待以便商議一切凡中外士商賜顧者請辱臨爲幸
運輸部
運搬特得官准開設火車轉運行於東西兩店并牛家屯分此殊以李吉甫田彫超等之華人敏活細心以責任欲膺事與本業賜顧幸甚
總司理人田中賴之助謹白 電話 東店五五 西店一[illegible]

三井洋行經理
明治火險公司
本公司開立已久分行上海、香港、天津、各地方中外馳名一核章程仿英例一式遇事克已秉公以廣招徠有願保火險者請至本行面議(電話六十八番)

東盛和
本號在營口創設二十餘年專辦出口餅油豆各等土貨進口棉紗布疋火柴洋麪糖煤雜貨發行并匯兌銀錢兼代客經理買賣租船裝運事宜在營口廣東兩處自建碼頭能泊輪船二艘棧房地方寬大凡油餅輪船裝卸貨物極爲利便囤貯油餅豆米麥更爲合宜兼置有輪船一艘名域多利能載重二萬担如有欲租船運貨及存棧貨物水脚棧租格外從廉 貴客賜顧請到小號面議是荷 經理人 葉亮卿謹白

東永茂
機器油房在營口創辦油搾生意多年以本營業非祇做油房壹事及經理買賣雜貨布疋等物并代客莊運汽船配載事宜三井行與本店素稱交厚並與各南北客經理有年誠信相孚還通知之 正理事 稲玉田 副理事 金德魁 設在營口西北街路南

西義順
本號開設營口西街老爺閣前路南營乙第五號專營裝卸輪船上下各貨照料穩妥堆棧寬大凡中外 士商賜顧者請認明招牌決不致悞 本主人敬啓

仁裕號
保裝運各幇火輪船生意兼賣各种洋什貨糧石等此佈
營口西大廟街路北營乙第十三號

元茂盛
油坊買賣元荳油荳餅雜色粮石以及代客應辦雜貨布疋一統發行裝運沙寶煙船交易南北客商歷有年矣爲此謹白
開設營口西街老爺閣前路北營乙第四十九號

代代木烟公司
本行專售 日本官造紙烟 星象牌(斯達)櫻花牌(撒利)百合花牌(利利)均已馳名內外玆特選上等烟料加工精製雙仙鶴牌(隆沽來福)淸香撲鼻佳美適口而價値極廉諸尊欲請可向敝行或請至本行公司代理店西營口大德元採買庶不致誤謹此廣告

飯塚工程局材料出售
啓者本局今特與日本北海道天鹽木料公司商訂以日本輪船運到各種木料品質精良久已馳名四遠以之築造屋宅及製造各色傢具無不合宜且價値格外從廉克己凡中外士商賜顧者請來本埠東營口元神廟街本工程局面議不悞再本十新到各種木料東洋炸子貨與價實以應各主顧急之需 國本主人啓

生徒募集
今般本院に於て在留邦人子弟の爲め尋常小學部を設置し曩に督促書を差出したるも尙遺漏の分もある可くに付特に廣告候條學齡者は至急本院へ照合し入學手續を爲すへし
營口 瀛華實學院

營口瀛華實學院招入學生
本學院肄業諸生頗著成效惟是從去歲常有陸續來學者本學院雖亦收入然班次不齊以致授課之時諸多未便玆因添設樓宇地勢寬宏學生宿舍各種器具無一不備現擬招入學生俟額數充足即行擇期一律入學有志願學者速到本學院報名每日上午九點鐘至下午兩點過期不候特白
營口瀛華實學院

淸酒東自慢、白鹿
朝日ビール
孔雀印平野水、箱根水
上等石炭
以上極廉價を以て發賣致候間御用仰付被下度候也
松茂洋行商業部 河岸通(電話五十二番)

東營口郵便局東隣
●島田洋服店●
●同 支 店● 新民屯停車場前

M. Iizuka,
CONTRACTOR,
ARCHITECT AND CIVIL EGINNEER.
Plans and specifications made to order.
ESTIMATES SUBMITTED.
MODERATE RATES.
No. 151 Yuwansinmiao
Ying Kow

森病院
一診察 自午前八時至正午十二時 自午後三時至午後五時
一往診 午後三時より
△患者の入院治療を諾す
△貧困患者の施療は正午十二時より一時迄
姙婦の入院を諾す(取扱主任產婆大道しげ子)
院主 森彌
醫長 鈴木昌平
營口永世街(電話一五五番)

大日本政府特定
官製口付紙捲煙草
滿州一手輸入發賣
江副洋行
營口永世街

和泉洋行
本店開設在營口重盛街、發賣毛布、手巾、小布衫、鏡子、錢袋、帽子、洋蠟、小刀及其餘各種雜貨一概俱全價値格外從廉克己、凡 中外仕商賜顧者、請速臨爲幸、
大阪府堺市熊野町 藤原謹啓

田中牛莊分莊
啓者本舖開設於東營口綏定門外經大阪九三組精造東緊身洋式襪子羊肚手巾各樣新近進口來的貨寄於本舖代售格外從廉 賜顧者請光臨本舖面閲是幸
田中牛莊分莊謹啓

材木販賣 荒物
秋田洋行
營口永世街第一八四號平野町
本店 下關 秋田寅之輔商店

●雜貨卸小賣商 附日用食料品
●菓子製造販賣商
●委托販賣商
●土木建築受負業
●瀛車積運送業
新民府孫家街
東洋號

今回弊店に於て明治火災保險株式會社代理店引受候に付き建築物、商品、家具、什器、一切の火災保險精々御便利に取計可申御用被仰付度願上候
三井物產合名會社 牛莊支店 (電話六十八番)

電氣諸機械
大販賣
本店 天津日本租界電話二〇〇
支店 營口永世街甲二一五號
三友洋行電機部 (電一五四番)
主任 朱牟田寅吉

自造 煉瓦 瓦
并ニ各種石材販賣
營口青堆子
加州組

東京電報

●外相の依願免官　鐵道國有問題により辭表を闕下に奉呈せる加藤外相は愈々昨日を以て願意御聽許あらせらる

●西園寺侯の兼任　加藤外相依願免官と爲れるを以て西園寺首相外務大臣を兼攝すること爲れり

●京釜鐵道買收案の提出　鐵道國有案提出と共に京釜鐵道買收案亦議會に提出せられたり

（以上三月四日發電）

倫敦電報

●モロッコ會議の好望　アルジエシラスに於けるモロッコ會議は進渉する所なきも一般に一層有望なる感を抱くに至れり獨佛兩國をして接近せしめむとてあらゆる勢力を利用しつゝあることは人の知る所なるが露國皇帝は特に平和的解決を希望せらる是れモロッコ問題が平和に局を結ぶにあらされば同皇帝の焦眉の急たる外債募集の目的を達すること能はざればなり

●紐育生命保險會社の損失　紐育エキテーブル生命保險會社の報告に據れば保險事業中傷の結果として同會社は二億二千萬圓の損失を受けたりと云ふ

●米軍淸國派遣準備　華盛頓に於て言明せらるゝ所に據れば米國陸軍省は一令の下に菲律賓よりの五千を合し二万五千の軍隊を淸國に派遣するの準備整ひ居れりと云ふ

●日英同盟條約第七條と英國外相　仲裁平和協會が日英同盟條約第七條に關し英國政府は日本と協商の上同條の意を明了ならしむべしと決議せるを以て英國外相グレー氏は之れに對して辯解して曰く同協會の決議は日本が英國に對して海陸軍の擴張を要求すべしとの想像に基きしものにして其想像たるや何等の根據をも有せざるなりと

（以上三月二日發電）

●濠洲殖民地首相と淸國關稅　濠洲殖民地首相デーキン氏は淸國關稅法に於て日本の石炭のみ一噸に付き五十錢を減ずべく差別を設けたる事に對して本國政府に抗議を申込みたり

●獨帝とモロッコ會議　獨乙側の信ずべき筋より聞く所に據ればモロッコ會議は和衷の望み確かなりと

●英領の麥粉送附　英領ビクトリヤ政府は日本の饑饉地に對して麥粉五千噸を贈附せり

●英皇の佛國御微行　英國皇帝エドワード陛下はポーツマスより御乘用の快走船に召させられ佛國シエルブールに向ひ給ひしが龍顏特に麗はしく見受けられたり陛下の御旅行は全く御忍びの筈にて次の日曜日には巴里の英國大使館に於て佛國大統領フアリエル氏及び首相ルービエー氏と御會食あらせらるべし

●獨帝外の遊と英皇　獨國皇帝ウヰルヘルム陛下は來る(四月)西班牙國に遊ばるゝ筈にて多分オリムピヤ祭の節希獵國に遊ばるべければ地中海に於てエドワード陛下と會見せらるべし

雜報

●鐵道經營上に印したる日露政策の幻影　在仁川　小川柳坡

三旬に渉る鐵道旅行に於て得たるもの何ぞ其鐵道は東淸線奉新輕便線撫順及營口支線奉安輕便線京義線京仁線にして延長千餘哩を超ゆ、廣軌あり狹軌あり、輕便式あり、各一ならず、亦一長一短あり、妄りに許言す可からさるも、此旅行に於て日露兩國政界の自から相違せるを認識せさるを得す

我國の手に歸したる東淸鐵道にして、露國經營の當時二三等停車場は公主嶺鐵嶺遼陽大石橋瓦房店大連なり、奉天營口蓋平等は加わらす、之開原昌圖の市街は三里內外を隔てゝ車站を設けられ、各車站とも市街に近きものは稀なり、露國か停車場を中心として、露國流の新市街を設立せんと試みたるにあらすや、之れ既に政略的にして商工業經濟的にあらす、

露國の侵略的政策は甚だ露骨にして粗大、其大綱を定むるのみにして計畫綿密ならす、秀吉式にして家康式ならず、彼か東三省の首都たる奉天に於ては其經營の規模を小にし、政治上よりは其影を沒し商業上の主腦たる營口の經營を疎にし、淸國及列强に對して政治上經濟上、併呑的野心なきを裝ひて嫉妬と抗抵とを避けんとし、單に旅順と大連とは彼か極東政治の根源なるを以て、旗色鮮明我は歐洲の霸國東洋の霸王たらんと宣言す流石に堂々たる行動なり男子らしき振舞なり、浦鹽の繁榮を減殺して大連を盛大ならしめんとする、恰も一度ペトロポウロースクを勘察加に得て東洋政策の根本とし、ニコライスクを得て之れを捨て、三度浦鹽を得て又之れを顧みず、南下更に大連を得、逐水草式の政策は頗る放膽に繼續せんとす、其政策必すしも非ならす、只其實行する點に於て計畫の拙劣なるを惜む、露國たるもの武力を濫用するの念をして更に薄ふし、經濟的知識の發達せしならは今日の失敗はなかりしならん乎、

露國の鐵道政策は常に軍事的施政其半以上を占む、哈爾賓は政治的中心市場とし、大連は商業的中心市場としたる外、鐵嶺遼陽軍事上の必要として經營したる迹歷々たり大石橋は追々營口を制して朝鮮に走る可く、最も主要の分支點たり、公主嶺又吉林長春の兩扉として經營せんとしたるものなり、彼は形勢の地をトして大停車場を建設せり、之れ餘りに政策的軍事的なり、若し經濟的眼光を以て鐵道經營を爲さは、少なくとも奉天營口の如き、繁榮なる都會には大停車場の必要あるものなり、如何に鐵道の如き交通機關か未開地開發に必要にして、舊市場及び沿道市街に大變動を加ふるにせよ。務めて在來の大市街の人と物とを利用する方針に出づるは鐵道經濟の主眼にあらすや、殊に南滿洲の如きは既に古き歷史を有し、五百年來秩序ある政治の下に統一せられ、村落を爲し、都會を爲し、山田水澤未、耜の入らさるなき農產國として、土俗風を爲し、其富饒の度も甚たしく劣等と云ふ可からす、而して支那人の風習は故俗慣習に拘み、商業上取り引き關係の如き、牢として破る可からす、勤儉其分に安んし、能く聚め、能く散する民にあらす、如此の國土に鐵道を敷設する豈に容易ならん、能く其都會を利用し、民人を誘導し、貨物を吸收し、商工業發達を計り旁ら自國民の移住を盛にし、漸以て風を易へ俗を改めて、文化を進むるの方針に出つるにあらさるよりは、到底鐵道經營は失敗に終るものと覺悟せさる可からす、

吾人は露國の極東に於ける鐵道經營は軍隊輸送に成功したる外は、失敗に終われるものと云わさる可からす、浦鹽經營は獨逸商人の成功と支那人の腹を肥したる外、何の得る所ぞ、今後露國か東淸鐵道の經營か、在來の如くんば北滿洲の經營又南滿洲の如けん、

我國の外國に於ける鐵道經營は、最近の事實に屬し、日露國の風雲急となるや、漸く京釜鐵道の速成工事となり、開戰後鐵道監部は軍用京義線の速成に着手し、鐵道提理部は占領せる東淸鐵道の修理改築を爲し鐵道大隊は奉天安東間輕便鐵道より進んて奉天新民廳間を敷設し了り、延長千五百哩に及ふ、三年ならすして此長距離の鐵道を敷設し得たる寧ろ長足の進步と云はざる可からす（未完）

滿洲近事

▲軍票と趙將軍の催請　滿洲內地に於ては今尙日本軍票の通用せられ昨今に至りては其流通最も圓滿に行はれつゝあるは世人の熟知する所なるが奉天將軍趙爾巽氏は是等軍票の滿洲內地に流通するを以て淸國の爲め其計に非ずと爲し昨今外部に向ひ日本と商議の上速に回收の方法を講せられんことを催請せりと知らず其果して事實なるや否や

▲御史趙將軍を彈劾す　頃者吳蕭二御史奉天將軍趙爾巽氏を參劾す略に云ふ

趙將軍赴任以來地方主權を失する多し之を前將軍增祺に較するに毫も勝る所なし惟知る名を估り譽を釣り外人に阿媚し奉天兵燹の後人民流離困苦すれども該將軍少しも法を設けて救議せず反て酷歛を加ふ殊に朝廷委任の本意に悖ふ甚し旨を以て大員に飭し查辦を請ふ

▲奉天銀行の不認可　奉天將軍趙爾巽氏は曩に奉天に埃太利銀行支店の設立に關し政府に申告する所ありしが此程外務部より不認可の旨通達せりといふ

▲淸國の黑龍鐵道自營　黑龍江將軍程氏は豫て淸露協商に於て露の要求せる黑龍江鐵道敷設の野望を挫く爲め又一は地方商務の推廣を圖る爲め齊々哈爾、受理、呼蘭城等の地を連絡すべき鐵道を敷設するの急務なるを陳べ省中官紳の意向も之を切望し居る旨電報を以て申出せりといふ

▲奉天各關の守備還附　戰役以來奉天省城各關の守備は全く日本軍に委せられしが日本軍も既に漸次撤退せるを以て此程省城各關の守備は悉く淸國に還附せりと

▲哈爾賓の新消息　哈爾賓歸客の談に云ふ哈爾賓の各商民は貨物運搬の際屢ゝ掠奪に遭ふを以つて市況極めて沈靜なり▲同地は今尙露兵の橫暴絕えず婦女を姦し財物を掠奪する等民皆安堵の思ひ無し▲吉林蛟密山子一帶時に馬賊の出沒するあり居民之を恐るゝのみならず露人も之を恐るゝこと甚し▲露國紙幣は居民之を喜ばずと雖も露人の威に恐れて止むを得ず之を使用すれども決して之を貯へ置く者無し▲麵粉糧米等價格殊に騰貴し貧民頗る困難を感じ居れり▲鐵道附近の淸民露人の凌虐を受け甚しきは殺戮せらるゝに至る而も寃を雪ぐに道無く淸官手を拱ねて空しく露人の橫暴を傍觀す▲吉林鐵道附近の蒙地露人に佔有せられ爾後屢次の交涉を重ぬと雖も未だ回收に至らず

滿洲側面觀

▲暗黑の世界　想ふに滿洲三省の再び暗黑の世界となるは、寺內陸相の、答辨の實行せらるゝの時にして蓋し今日を去る遠からさるの將來に在り世人或は新練の淸兵に信賴せんとす我か當局者の如きも亦た其一なるへし危險も甚だしとす彼、等か實際に於ける力量は知る者の知る所の如からすや且つ夫れ余輩の更に危險を想像する者は近來の淸國各地に蔓延せる所謂排外熱也、不幸にして滿洲にも亦た其信徒を生するに至りは獰惡殘忍なる馬賊と無職無賴の苦力と抱合し一層の殺氣を示し恐る可き結果を觀る無きを保せす、然り、不幸事此に至らは淸國に於て最も危險を覺るの地は蓋し滿洲三省を以て第一とす外人は新練の淸兵駐在するの故を以て此時に及ふも斷して能く安心するを得るか同胞は我二個師團の守備兵に依て身命財產の危險無きを覺る乎排外の信徒と惡の馬賊と無賴の苦力か抱合するの時は亦た淸兵も加入する秋也即ち滿洲一圓全然暗黑界と化するの日也、僅に二個師團の兵力竟畢何程の効力ある、

▲經費の節減　經費の節減は方今帝國の輿論也何人も異議無き所とす議會か我か陸軍費に節減を加へたるは寧ろ當然なり予輩亦た其の不可を云はす唯た獨り慢然として減少し滿洲の守備に付て特に意を留めさりしは深く恨とせさるへからす若し三百議員に於て戰後の滿洲に對し多少の智識を有したりとせよ、總体に於て今日と等しき經費の減少を見ると雖も、滿洲守備に於ては尙は幾分の餘裕無からすんはあらす然かも遂に今日を見るは豈遺憾にあらすや朝鮮は豫定の兵備にて其の不足を覺へさるへし滿洲は予輩之を諸種の方面より觀察して頗る其の駐兵の少きを感せさる能はす論者或は云はん、假令經費の多數駐兵を許するも公約の之れあるを奈何せんと、公約は公約なり予算即ち別に說あり經費若し尙は許すあらは守備豈に多少の手加減無からんや（未完）

東西南北

●橫須賀紀念便殿　此程コンノート親王殿下橫須賀御成の節は鎭守府樓上司令長官室を以て殿下の御休憩所に充てしが當日は有栖川宮殿下も御同行にて御休憩所には日英兩國の親王殿下一堂に會せられしを無上の光榮とし上村長官は爾來長官室を次室に移し從前の長官室が兩殿下御休憩所となりしを好機とし同室を以て來るべき戰艦薩摩の進水式行幸の際に於ける便殿に供し奉る筈にて更に高尙善美の裝飾を施したりと

●ガーター大勳章　ガーター勳章は位に於て高貴なるのみならず質も頗る高貴なるものにしてダイヤモンドを諸所に鏤め星章も亦ダイヤモンドを以て中央に釣られありジョージの像は縞瑪瑙ブリヽアント寶玉等を鏤め全體の實價は一萬圓以上なりとぞ

●凶作地と馬鈴薯　馬鈴薯は近年著しく海外に輸出され內地に現存するものは極めて少額の見込なれど同薯は成熟の早きものなれば本年米作の秋收を見る迄の食料として凶作地に其栽培を奬勵する爲め種薯として必要なるは勿論現下の食料としても亦適當のものに付此際輸出を中止して凶作地の需用に應ぜしむる筈なりと

●支那通商協會　神田錦町淸語學會に關係ある學者實業家の間に於て豫て計畫せられつゝありたる支那通商協會は去る廿四日創立總會を開きたるが同會の目的は對淸商業上の標本蒐集渡淸者の案內、日譯漢譯の應需對淸通商上の質疑最近支那商業上の報告滿洲探檢者の派遣等を爲すにありと

●日本館營業停止せらる　天網恢々粗にして洩さずとは能く穿てる格言なり　玆に當地二本町の日本館と云へば營口にても屈指の料理店にして抱妓其他召使等を合すれば優に三十人の上に出て其米配は原籍石川縣鹿島郡鳥屋村三野よね（五〇）と云ふ豪尻女將が掌り助役として帳場の滋澤源次郞なる者萬事策戰計畫を廻らし此の不景氣にも係らず相當收入もありて何不足なく維持せる料理店なるが扨て女の淺間しさと帳場の無敎育は飛んでもない馬鹿な事を仕出かし家の看板に傷を附け世間の笑者となるも歎げかはし、爰に同店へ昨年十二月頃より抱へのおツル事佃トリなる酌婦を居留認可は云ふに及ばす下婢鑑札も受けさせず隱蔽し密に春を賣らしめ今日迄巧に法網を潛らせ又沖野ハルなる者以前は同館の下婢をなしたるも其後帳場滋澤源次郞の內緣の妻となり川崎柳三方に寄留させたる如く裝ひたるも事實は全く同居し之れも今日迄官憲を晦まし居りたるが二三日以前其筋より戶口調査をなしたる際尙は隱蔽して其實を吐かざる所慧眼なる憲兵に看破せられ昨日樓主及び關係人一同軍政署に召喚せられ大目玉を頂戴したる上二日間營業停止とは安き處分なり因に他にも是等に均しき料理店數多くあるよしにて昨今取調中なりと各自充分注意すべき事なり

●又も火事　一昨々夜午後十一時十分頃二本町祇園閣門前道路に沿へる物置小屋より出火し一棟全燒して同十一時四十分鎭火せり原因は同店使用の苦力が該家屋の一隅を寢室に宛て居りたれば多分蠟燭を點し其儘打忘れ外出せし爲め傍らの物品に延燒せしならん尙同家屋には夏向使用の客道具一切を入れ置きたれば意外の損失を蒙り家屋及び物品にて約千三百圓位なりと云ふ因に同店にては火災四五日以前に三井支店取扱の明治火災保險會社に全家屋三千圓の保險を附したりと云へは其損害も多少免るへき事なり

●火事の注意　火の用心に就ては屢々一般讀者に警戒を促したる所なるか近來又もや頻々火災を見聞するに至る現に近きは永世街田源洋行裏家の如き又一昨夜の祇園閣の如き實に物騷なる事なり殊に當地の如き給水の道至つて乏しき土地には尙更注意の上に注意を爲すこと肝要なり今重ねて左に注意の一二を掲載し一般の參考に資せん

▲一番危險なる時間　火事の一番多き時間は云ふ迄もなく夜であるが一日にすれば午前は十時午後は三時夜は七八時、十二時過ぎが多い、兎角人は火を使つて居る中は隨分と注意が行き屆いて居つても使用し終つて以後の仕末を忘れる事が多いそれは以上に揭げた時間即ち食事中よりも食事を過ぎし數時間の後に多いのにも判かる事で之は誠に家庭を治める婦人の方々に注意を煩はしたいものである

▲一番危險なる場所　之れまでの經驗に照して一番危險なりと思ふのは炊事場の煙筒とストーブであるが普通の家でも床の中で煙草を吸む習慣だけはどうか止して貰ひたいものだ次には有明洋燈、炬燵、七輪、火消壺等であるが殊に最も注意すべきは炬燵である能く氣を付けて居ればよいが其儘にして他出するなども失火の原因となるのが多いから之れは成るなれば止したいものだ夫れから尙最も注意を要するはストーブである主に火事の起るものは多くは煙筒掃除の不行屆でその爲めに出火する事が間々ある

▲火事の時の心得　總体に放火の方は早く見附かつて消し止め易いが粗忽の火は多く延燒する傾がある夫れは成る丈け表向きにしたくない私に消し止めたいと云ふ念慮から色々にして自分で消して見る遂に防ぎ切れなくなつて初めて人を呼ぶ時はもう如何とも始末が出來ぬ時だ之は頗る間違つた話で火か家から出たと思ふ時にもう仕方がない慌てるのは何よりの害先づ氣を落着けて第一に大切な品物から取出す準備をする其一方には何を差し置いても近隣の助けを呼ふのか肝要である次に彼の消火器は一家每に必す備へ置くべきで之れさへ旨く使へば四五坪の火などは何の苦もなく消せるのであるが火事の時には兎角誰でも慌てるのが常と見えて折角の消火器を逆にして見たり或は破はして了ふこともがある又た之を用ゐるにしても炎許り見て反對に筒口を向けて實際に火のある原に氣が付かぬなどの爲に見す見す火を大くすることなどはよくある例だてんな時は慌てぬが第一だ

大車

▲上行車時刻表

車站名	開午點分	到午點分
新民屯至溝邦子	上六、〇〇	上九、五七
營口至山海關	上八、二〇	下六、〇〇
山海關至唐山	上一二、一八	下六、二〇

▲下行車時刻表

車站名	開午點分	到午點分
北京至山海關	上、八〇〇	下六、二〇
北京至天津	上一一、二〇	下五、四一

野戰鐵道普通輸送列車發着時刻表

大連奉天間下り列車

驛名	發着時刻
大連	發午前九、〇〇

上り列車

驛名	發着時刻	
遼陽	着午後三、五〇	發四、五五
大石橋	着一〇、三二	發一一、三五
金州	着翌前二、二〇	發三、一〇

大連營口線下り列車

旅順	發午後二、〇三	
大連	着五、三二	

天

營口地方

自昨日午後六時至本日午後六時

小説　新作小説　おとし胤（五）

徳田秋聲

巨漢は、更に言を繼いで、

「成程貴方は、阿父さんの許へゐらツしやれば、好い御身分になれるかも知れません。好い着物も着られませうし、賑な所へも出られませうし、他から見ると羨まれるやうな御身分になられませう。何しろ貴方の阿父さんは、華族です。」

「え、華族ですツて?………」

「然うです、で、貴方は、子爵家のお姫様になるのです。」

「まア、私が………」

と光は只驚くばかり。彼は此の巨漢の口から出る一言々々を宛然に青天に霹靂を聞くやうに思つたのであツた。

「併し貴方、能く考へて御覧なさい。幾ら阿父さんが華族でも、今まで貴方を放擲つて置いたやうな方ぢやありませんか。今まで貴方に、阿父さんが有るか無いか知らないやうにして置いた方ぢやありませんか。そりや今となつたら顔も見たいでせう、また御自分の爲たてとが後悔にもなりませう。第一お子さんといふものが一人も無いのですから、貴方をお迎に遣されるやうになつたのです。雖然其處には、然々な事情があつて、貴方が阿父さんの許へゐらツしやると、とんだ苦勢をなさらなければならん。いや、きツと苦勢をなさいます。」

「苦勢ですツて?………　え、阿父さんの許へ行くと苦勢をしなければならないんですか。」

と光は、ぶる〳〵ツと體を顫はせた。彼女は其の母御が苦勢の爲に死んだてとを憶出したのであつた。

「貴方は苦勢の味を御存知ですか。人間の苦勢の味!」

「知らないわ!」

と光は、無雜作に頭を振つた。

「然うでせう、御存知無いでせう。」

「けども、阿母さんが苦勢をなすツてお亡くなんなすツたてとを、お祖父さんから聞いてゐてよ。」

「それぢや苦勢といふのは、恐ろしいといふことを御存知でせう。貴方能くお考へなさらないと、阿母さんのやうに苦勢をして、不幸な夭死をしなければなりませんよ。何しろ阿父さんのお家といふのは、家庭が餘程面倒なお家なんで、それが爲に、阿父さんでさへ何度氣が觸れかゝツたか知れないといふてとです。」

「まア、其樣な恐ろしいお家なんですか。」

「然うです、華族仲間でも、海鹿家と謂つたら有名な家庭なんです。そりやお祖父さんにしても、滅多に貴方を手放しはなさらんでせうけれども………　殊に貴方の阿父さんに對しては、大層憤ツてゐらツしやるといふことですから、よもや、お迎の者に貴方をお渡しなさらんでせうが、何んと謂ツても對手は舊の主人です。所謂藩主公なんですから、昔氣質のお祖父さんは強ツてと謂はれたら、往生づくめになツてお了ひなさるかも知れません………」

「では私の阿父さんは、藩主公なんですか。那の藩主公………」

と光は、お祖父樣から不思議な昔噺を聞くよりも更に不思議な思………　まるで夢でも見てゐるやうに茫ツとしてゐた。

「然うです、高は僅か七万石でしたが、直参で役目があつたものですから、昔は此の北國筋で屈指の大名でした………　まア飛ぶ鳥を落す勢があつたといふものです。そこでお祖父さんは國家老の筆頭だツたのです………　といふ譯ですから、お祖父さんも今度は、隨分切ない思をなさるだらうと思はれるんです。併し貴方がしツかりさへしてゐらツしやれば、其樣なに難しいてとはありません。何んでも管はないから行かぬと謂ツて剛情を張通してお了ひなされば可いのです。」

「私が剛情を張るんですツて?………　那の阿父さんの許へ行くのが嫌だと謂ふのですか。」

「然うです然うです。それが阿母さんにも、またお祖父さんにも大變に孝行になるのです。第一貴方のお身の爲めにもなるのですから、能ツくお考へなさい、大事の場合でございます。」

光には、何うも此の巨漢のいふてとが解らぬ。何しろ光は、阿父さんのあるといふ事の解つたのが悦しくてならない。また今直にでも逢ひたくてならない。それで、

「それでも私には、其樣な剛情を張ることが出來ないてとよ。だツて、私、阿父さんに逢ひたくツてならないんですもの。」

と正直なところを謂ツた。

「え、何んですツて?」

と巨漢の聲は鋭くなツた。

「私、眞箇に阿父さんに逢て見たくツてよ。」

光は天性、誰に向ツても、また何樣な場合にでも嘘を吐くといふてとが出來ぬのであつた。林の中は、もう殆ど眞ツ暗になツてゐた。

●無聲錄　日露戰爭に於ける陸海兩軍中の異色を以て目せらるべき大立物は東鄕大將と乃木大將とである▲東鄕大將の成功は殆ど世界無比と稱すべく出征諸將中其右に出づる者は一人も無い日露戰爭は東鄕一人でやつたやうな形で有るが其凱旋して一たび狹斜の地に出入するや其神々しい所が滅切無く爲つたのは殘念でないか▲乃木大將は勳功から言へば東鄕大將の側にも寄附けぬのみならず陸戰諸將中にも其れ以上の勳功者は少ないが其人格の極めて高潔にして清廉硬直飽く迄も社會の汚風に反抗する所は洵に古武士の典型と稱すべくたとへ功業は遠く東鄕に及はぬにしても畏敬の念が更に多いやうな氣持がする而して戰後の我邦が要求すへき人物も亦後者に在つて前者に無いのである(如雷逸人)

營口商店案內

松茂洋行

大阪にて銅問屋河邊といへば誰れ知らぬ者無き資產家なるが當松茂洋行は即ち其支店にして廻漕業を主とし傍ら朝日ビール、白鹿、東自慢等の清酒特約販賣を爲し[illegible]本業の銅は當地にては取扱はざるが如し主任者武石房吉氏の熱心と勤勉とにて廻漕業日々隆盛に赴き又近頃大連に出張店を置き陸路輸送業にも從事すべしといふ

廣告

東北凶作地窮民義捐者芳名

元順和 同三圓
曲會嘉 同一圓
四[illegible]利 同三圓
張松亭 同一圓
德[illegible]和 同三圓
沈文錦 同一圓
源[illegible]泰 同三圓
朱[illegible]麟 同一圓
興[illegible]隆 同三圓
王文漢 同一圓
裕泰豐 同三圓
李[illegible]九 同一圓
同[illegible]恒 同三圓
李[illegible]一 同一圓
永豐盛 同三圓
[illegible]濂洲 同一圓
永豐恒 同三圓
張子方 同一圓
永豐德 同三圓
劉智生 同一圓
益盛[illegible] 同三圓
張立堂 同一圓
新[illegible]泰 同三圓
于[illegible]軒 同一圓
福玉成 同三圓
李香圃 同一圓
德[illegible]永 同三圓
劉[illegible]臣 同一圓
利生長 同三圓
王[illegible]圃 同一圓
聚盛永 同三圓
周世臣 同一圓
永成[illegible] 同三圓
苑[illegible]閣 同一圓
宏[illegible]東 同三圓
張鴻發 同一圓
東[illegible]順 同三圓
王振堂 同一圓
裕亨隆 同三圓
王穎儒 同一圓
福昌合 同三圓
于化久 同一圓
源增慶 同三圓
李永春 同一圓
利增和 同三圓
焦允泰 同一圓
魁發合 同三圓
王殿魁 同一圓
福豐盛 同三圓
孫榮光 同一圓
萬昌茂 同三圓
李[illegible]春 同一圓
永和興 同三圓
范用懋 同一圓
義祥德 同三圓
韓魁廷 同一圓
阜豐恒 同三圓
李[illegible]田 同一圓
永升泰 同五圓
福亨成 同五圓
同合玉 同五圓
益昌盛 同五圓
晉和長 同五圓
張茂林 同一同
張萬祥 同一圓
王協臣 同一圓
李允公 同一圓
廉恩波 同一圓
王子迹 同一圓
徐堯臣 同一圓
王連祐 同一圓
于恩浦 同一圓
王德雨 同一圓
李孔恂 同一圓
欒潤身 同一圓
李聖堦 同一圓
羅仁峰 同一圓
李文軒 同一圓
謝海亭 同一圓
姜星五 同一圓
唐聖功 同一圓
姜殿坤 同一圓
李雅亭 同一圓
趙孟令 同一圓
滕肇才 同一圓
宋祿齡 同一圓
石殿甲 同一圓
王延富 同一圓
侯振昌 同一圓
馬洵泠 同一圓
劉殿一 同一圓
齊輔廷 同一圓
玉生昌 同五圓
永茂德 同五圓
計百八十圓
累計四千四百八十一圓九十五錢

競賣廣告

第一號　二輪荷馬車　千參百輛
第二號　二輪荷馬車輓具　五百副
第三號　一人挽徒步車　三千輛

此入札保證金は各自見積代金百分の五以上右競賣に附し賣却す入札望の者は當所倉庫に就き(自午前十時至午後四時)間現品及入札心得書並に契約書案等熟覽の上來る三月二十日(自午前十時至正午)入札書差出すべし但即時開札す
此契約は門司野戰兵器本廠奉天出張所長西野雄太郎擔任す
明治三十九年二月二十日
奉天停車場南方約八百米突に在る(山西會館附近)
門司野戰兵器本廠奉天出張所

拍賣告白

門司野戰兵器本廠奉天出張所茲於日曆本年二月二十日在奉天倉庫拍賣車輛願欲包攬者每日自上午十點鐘起至下午四點鐘止須到該處詳看車輛拍賣知及合同樣式限於三月二十日自上午十點鐘起至晌午須呈入札書即行開札再立此合同者爲門司野戰兵器本廠奉天出張所長西野雄太郎

計開
第一號　双輪搬貨馬車　千三百輛
第二號　双輪搬貨馬車用車套　五百副
第三號　人力單拉車　三千輛
承買者均須將各自估價一百分之五先交作押
明治三十九年二月二十日
在奉天停車場東南方淸里一里半(山西會館附近)
門司野戰兵器本廠奉天出張所

諸鐵工製作

鑛山船舶機械鐵工
輕便鐵道附屬鐵工
土木建築用鐵材料
其外鑄物諸般
營口綏定門街東　ブリツジ商會
川喜鐵工場

謹告

昨夜近火の際は早速御馳付被下一方ならさる御配慮に預り候段一々御禮可申上筈なれ共取込中に付乍略儀以新紙を此段御禮申上候　頓首
永世街　田原洋行

建築請負廣告

弊組儀昨年中官民の建築工事に從事致居候處本年より專管居留地へ各事業家之建築多大なるものと推測し就ては本年より一層事業を擴張し各位の希望に應じ正實と叮嚀を主とし勉強可仕尙構造法等は多額を要せずして強固なる建築法を研究在候間建築御希望の御方は御通知次第參堂御相談可申御注文之程偏に奉願候
建築設計依賴に應ず
營口永世街二本町二百五十八號　工棟組

右今般新荷着仕候間可成至急御申込願上候
消火器
英治洋行　營口新北街

一昨夜失火の際は皆樣の御盡力に依り幸に倉庫のみにて鎭火仕候段奉難有存候一々拜趨御禮可申上筈に御座候へ共取込の際貴名伺洩れも可有之と存候間此段以紙上御禮申上候
追而座敷むき等には毫も故障無之從前の通り引續き營業罷在候間不相變御引立の程奉願上候
二月六日
營口二本町　祇園閣

謝近火御見舞　山田千秋

近火御禮　まんなとし

謝近火御見舞　營口二本町　壚川商會

謝近火御見舞　日本館　三野よつ

謝近火御見舞　營口二本町　木村寫眞館

謝近火御見舞　取込中御名伺洩れ有之と存候間乍畧儀以新紙此段御禮申上候　營口二本町　丸山藤松

謝近火御見舞　取込中御名伺洩れ有之と存候間乍畧儀以新紙此段御禮申上候　營口二本町　高坂洋行

謝近火御見舞　取込中御名伺洩も有之と存候間乍畧儀以新紙此段御禮申上候　營口二本町　日莊洋行

謝近火御見舞　吉野亭

謝近火御見舞　梅廼屋　田村瀧太郎

謝近火御見舞　營口二本町　あしのや　石本藤七

昨夜近火の際は早速御見舞被下其際は多忙に取紛れ一々御名前の伺洩れも斗り難くに付略儀ながら此段新聞紙上を以て御禮申上候也
三月四日
營口永世街二本町　藤井洋行主　藤井倉吉
各位樣

近火の際は早速御越被下一々廻禮可申上の處混雜の折柄尊名伺洩れも御座候間乍畧儀以新聞紙御禮申上候　早々
二本町　菊水

滿洲大販賣所

營口 池上出張店（張松林邸內）

遼陽停車場前 池上出張店

奉天 池上出張店

雜貨 醬油 木炭 すし米 清酒 大樽 半樽

營口西北街 阪神組

雜貨卸商

在元神廟營口街 關東公司雜貨部

Yano & Co.

矢野洋行

Telephone No. 137 電話一三七

諸雜貨、家道具類、呉服反物、蒲團類、婦人用小間物、下駄、足袋、食料品、其他種々

今回新荷着致候間直段も極安價を以て御用に可應候に付何卒多少に不拘御用命の程偏に奉願上候 謹言

本家 日本東京神田鍛冶町 堀内大藥房

あさだあめ 淺田飴

肺○痰喘氣急傷風痰○小兒風痰病後體弱肺病一切立見奇功

◎たんせき一切◎肺病の特藥◎ひきかぜ◎病後のよわり◎弱き人の滋藥

有名賣藥醫藥醫科器械卸小賣

永世街 東瀛大藥房 房主 藥劑師中馬龍造

石材、碎石 瓦、煉瓦

並に自家製造 廉價販賣

營口元神廟街四十號第二號 順吉洋行

營口商業學校招入學生

本學校由客春開學以來肄業諸生頗著成効茲因添建樓宇增設講堂應需器具種々皆備現擬招入第二次學生

宗旨 造成辨公實業家

學科 修身、漢文、商律、簿記、詞章、習字、算術、圖書、地理、歷史、理財、商品、商業學、日語、英語、理化、体操

學額 五十名

資格 十五歲以上文理明通者

學費 特免惟寄宿舍生自備饌費餘皆本校墊辦

入學 陰曆三月初一日

夜班 專爲有志向學而白晝忙於謀生者計每晚兩點鍾之功課授以漢文算術商業學日語以一年爲限

○欲覽各樣詳細章程可到本校索閱

SPECIAL LIGHT (PILESNER BEER)

スペシャルライト賣出し

スペシャルライト、はピルスナビールにして此種のビールは日本に於ては弊社始めて之を釀造せり

スペシャルライト、は高價を拂ひて元料を特選せり

スペシャルライト、は其味輕くして高尙なり

釀造元 大阪朝日麥酒株式會社

營口發賣 關東公司雜貨部

醇良自釀清酒

札幌ビール 朝日ビール 口付賣大和 酢 醬油瓶詰樽詰 菓子罐詰色々 洋酒類 右取次販賣

牛莊港東營口 宅合名會社 營口支店

ゼム 財茉 口中香藥

ゼムハ著大ナル効能ト愛スベキ美味馥郁タル香氣ヲ有スル良劑

財茉者芳香馥郁而美味可愛靈約也

大淸國發賣處 淺野大藥房 營口永世街（二本町） 各國有名靈藥總發賣處

大日本東京 山崎愛國堂 大藥房處修

京北 扶桑旅館

東單牌樓大街路西 客室清潔料理鮮新

營口 本店 彌生 電話四一番

支店 彌生 鐵嶺西門外大街

今回新に鐵嶺支店を設け旅館及會席御料理營業仕候間本店同樣御引立之程奉願上候

一位置 西門より西の方五六軒北側に候

一構造 室內裝飾等日本式 特別室あり凡て營口本店の設備に比し優るとも劣るとなし

一待遇 は親切と叮嚀を旨とし調理萬端十分注意仕候

館主宮下只七郎

旅館 東京樓

營口中央市場前 萬事勉強乘車乘船好位置

店主 熊田兼次郎（電話百七十八番）

即席和洋料理 東京樓支店（電話四十四番）

西洋料理仕出し御需應にす

奉天日本旅館 瀋陽館

家屋宏壯清潔 接待優遇懇切

開放全時一閣業 奉天小西門外ナ緯路北

大日本帝國醫科大學模範藥局御用達

攝津灘石崎合資會社釀造

澤之鶴 醇良清酒

滿洲特約大販賣

周 裕和盛號支店 清國營口西北街 電話八十一番

裕和盛本支店所在地

○本店日本長崎梅香崎

○支店清國、芝罘 旅順、鐵嶺、

○支店韓國京城、仁川、木浦、

裕和盛販賣品目

○酒保用品雜貨

○日本酒澤之鶴樽詰瓶詰

○洋酒食料品各種

○和洋煙草各種

○菓子類各種

澤之鶴は 既評に定ある天美祿！

裕和盛は 清商中日本通の張本！

工 飯塚工程局材料部

營口元神廟前（電話百三十五番）

弊局土木建築材料品の各產地と特約を結び廉價を以て多少に不拘賣却仕候間御引立の程奉希上候

一北海道產松大角材外種々

一石灰、石材、敷石、碎石、煉瓦等

一日本石炭數種

宮門抄

初七日

刑部　都察院　大理寺　廂紅旗値日　吏部引見六十二名

車王　續假十日　廂黃蒙奏派稽查備查墻廂　派出奎順　孚琦

吉陞　德麟　祥年　樸壽　祥麟遞遺摺

召見軍機　溥興

上諭恭錄

初七日奉

上諭此次京察一等圈出人員着各該堂官再行出具切實考語交部帶領引見所有圈出之滿洲蒙古中書筆帖式等官着歸入理事同知通判內遇有缺出與舊記名人員一體帶領引見漢軍漢員着交部以撫民同知通判等官分別選用大理寺左評事王金綬太常寺寺丞兼讀祝官崇恩光祿寺古弌學司業承慶內閣典籍蘇元龍宗人府委署主事定秀翰林院待詔朱桐太常寺讀祝官啓順景存贊禮郎松銓裁缺國子監助教松廷文鼎周濂徽鴻臚寺鳴贊額圖渾長齡侍衛處委署主事春和鑾儀衛鳴贊鞭官海雁欽天監主簿司秉鈞陳壽圖俱着（部照例以應升之缺升用其內閣侍讀恩佑等二百七十六員俱着准其一等加一級欽此

旨光祿寺卿着承祐補授欽此

旨麒德着補授內閣學士兼禮部侍郎銜欽此

旨王　着補內閣學士兼禮部侍郎銜欽此

奏議

吏部奏遵查疏通翰林各員陞途摺

奏爲查明請　旨事准翰林院知照光緒三十一年十二月十三日具奏議覆疏通翰林各員陞途一摺本日奉　旨依議欽此欽遵鈔錄原奏知照前來原奏內稱查照六部都察院條例參酌辦理凡讀講撰文編檢各員歷俸在三年以上者准以知府保送九年以上者准以道員保送六年以上者准以知府截取十二年以上者准以道員截取其例應截取願就保送者仍准一律保送凡所定年限皆照實歷俸次不准指俸以示限制凡俸滿截取之員除現有供奉要差及才學兼優應留內用各員外其餘人員統由臣等隨時考察先儘通達時務諳習吏治者送部引　見各按奉　旨先後銓選分發不必拘定俸次凡　京察曾經記名例應截取人員願就分發者應查照歷俸年限應得道府班次送部引　見准其分發省分歸截取班儘先補用等語查定例給事中御史歷有二年方准論俸截取升用道府奉部截取時令該堂官分別堪勝煩缺或僅堪簡缺秉公保送帶領引　見請　旨記名遇有缺出於　記名之人其保送煩缺人員引　見准以煩缺　記名者仍知會軍機處遇有請　旨缺出一體進單恭候　簡用其僅堪簡缺者如本月無簡缺仍歸原班俟有簡缺再行升用各等語今翰林院奏請讀講以下各員歷俸三年以上保送道員六年以上截取知府十二年以上截取道員係爲疏通翰林升途起見既經奉　旨允准自應欽遵辦理惟詳繹例意論俸截取總宜以俸次爲先後若如原奏俸滿截取之員由該院隨時考察送部引　見各按奉　旨先後銓選分發不必拘定俸次似與定例未符臣等公同商酌嗣後翰林人員合例保送者准由該院隨時保送分發其截取人員仍由臣部按照翰林院奏定歷俸年限分別應得道府挨次行文截取如例應截取願就保送或現有供奉要差及才學兼優留備內用各員應由翰林院聲叙到部即暫停其截取以次截取在後之員挨引

見記名後各按俸次先後銓選又據稱凡　京察曾經記名例應截取人員願就分發者應查照例俸年限應得道府班次送部引　見准其分發省分歸截取班儘先補用等語查臣部例章保送到省人員歸於候補班內補用截取分發人員歸於截取　記名人員班內儘先補用歷經辦理在案今　京察　記名人員例應聽候　簡用與截取名人員班次不同未便因願就分發即歸截取班儘先補用應請嗣後願就分發人員歸班無論曾否　京察　記名但以截取爲斷其曾經截取者分發到省後照截取補用班次辦理如未經截取保送分發到省仍按保送補用班次辦理以歸畫一而免分歧如蒙　俞允凡經臣部截取人員應由該院分別堪勝繁缺或僅堪簡缺出具考語咨送臣部帶領引　見其以繁缺道府　記名者即由臣部知照軍機處請　旨簡用如僅堪簡缺者仍專以簡缺道府選用至銓選班次道員應查照給事中知府應查照郎中御史雙單月各附入一班由臣部統按俸次先後照例分別註册辦理所有臣等查明緣由是否有當伏乞

皇太后

皇上聖鑒訓示遵行謹　奏奉　旨依議欽此

東京電報

●日本外務大臣之更任

（西三月四日發）　外相加藤君日前於閣臣會議因議不相合遂奉呈辭表一事已誌報端聞昨蒙允即以西園寺首相暫攝理其職云

●贖回京釜鐵道案提出

日政府提出國家所有鐵道案於議會并提出贖回京釜鐵道一案云

倫敦電報

●美國派兵準備

（西三月三日發）　據美國華盛頓傳說云美國陸軍刻已整備命令一下可得派遣於中國之兵員二萬五千人按該兵數中五千人即在菲律賓島駐屯之兵員也

●對中國關稅法抗議

中國關稅法中有特對日本所產石炭每一噸減五十仙之條項濠洲殖民地主帖頃君執以爲不可特提出抗議於本國政府云

中外要聞

●飭議保教章程　昨　兩宮召見慶邸問以外省匪徒揚言排外皆由地方官未能實力察拏以致死灰復燃惟恐日久滋生擾亂　諭令政務處大臣暨外部大臣作速擬定切實保教章程呈閱後頒發各省永遠遵行等語

●電查梟匪　軍機大臣面奉　諭旨電致江蘇巡撫有人奏聞江北一帶梟匪匿跡嘯聚成群竟有白晝擄人搶刼情事實爲地方之害務飭所屬嚴密查拏以遏亂萌等語

●要求路礦　近日外部屢有法義等國公使至部要求路礦之權並聞東三省商埠利益外部堂憲均婉詞謝却云云

●法人要求廣西駐兵　法公使昨照會外部稱粤西駐兵一時不能全撤倘一經撤退匪徒毫無畏忌再行擾亂焚毀中國官兵不能隨時救護事後中國允認賠償而官兵竟不能將匪徒拏護致令神甫教徒終朝危懼請貴部允准粤西駐兵一千本國教徒財產均以此兵保護亦與貴國不爲無益云云

●電請索俄賠欵　日俄戰役吉林地方被俄軍損害之生命財產爲數不貲現由吉林將軍詳細調查已得確數日前將此項損失數目開列淸單呈送外部請向俄使交涉務乞索償以蘇民困云

●强索夾皮溝礦產　俄使要索夾皮溝礦產經外部復駁在案聞璞使要索此項鑛產執意甚堅日來又復照會　部堅請飭吉林將軍發給夾皮溝探礦執照云未悉外部能終拒之否

●摩國問題可望和平　列國代表者於阿塞士拉斯府公舉財政專門家令其會議摩洛哥國立銀行問題現由財政專門家集議擬一章程提出於列國代表者想國立銀行問題從此必見核奪而警務問題亦可交委員總會議擬章程再由列國代表者會議定奪矣

●開徵先用滾單　政府議擬各省州縣徵粮一事尙有巧取累民之處飭各督撫嚴查究辦通飭各縣每至開徵之際諭飭設立滾單一紙將花戶姓名及應完條銀數目開列單內散給鄉民以便民間易知得以照數交納

●擬放軍機　聞軍機處現在於二月間滿章京將次用竣議擬咨行各衙門保送之員此次務令該衙門堂官先行考試滿文通達漢論一篇兩項皆通者出具切寔考語再行保送云云

雜報

●河氷濟民　近因本埠塘水枯竭人民汲取食飲大費艱難而乃春日載陽暖融河雪溶々渙々幾若潺湍加以氷多上河山水凍結流來本港冱封而蝸雪化湍槪可食飲因而人民汲取頗賴資濟云

●第三次演說之大槪　營口萬國演說會於前初十日開三次演說席次魏牧師雅各魁君星皆忠君俊卿霈君典生先後演說其大意均以振興學堂培植人才爲主按營口一埠居留人計七千戶以上除日本設立兩學堂以外餘則無一創設者諸君以此董勸商民其爲當務之急乎

●滅火粉試驗之成績　日歷上月念六日在日本領事館前試驗消火粉已誌本報聞是日在觀覽場置立高一丈四尺寬六尺之木箱內外面俱糊以舊紙灌以煤油以火燃之其氣焰猛烈不可嚮邇觀者二百餘人皆望而却步而撒嶺古氏乃猛進投以滅火粉一罐火焰忽滅觀者請再試驗以究其詳乃取草具灌以煤油燃之而火勢更烈又投以滅火紛四罐立即消滅觀者正金銀行中村氏當購去十搭原此紛係褐灰色爲前八年美國化學博士哈列姆氏所發明者以錫製長二尺直徑二寸之圓筒貯之其重量約二斤許其藥力可保存至二十年之久價値每罐十元每一搭百元託本埠遠來洋行代售前天津奥國領事館之火災以此粉投之已見明效蓋此粉實本會社導賣品中之最有名譽者也聞軍署所購者特以分給分署及各憲兵派遣所以備不虞云

NEWCHWANG, TUESDAY, MARCH 6, 1906.

THE RUSSO-CHINESE CONFERENCE, (PART IV.)

As regards VII., the burden of proving, not to the Russians but to her native subjects, the uselessness of the Russian rouble notes beyond Kiakta rests on China, who only need produce tangible proofs of the valuelessness,—facts that are self-evident and logically indisputable. If China can do this, which would seem very easy for her, Russia must yield, provided she would be reasonable. For, the circulation of valueless notes necessarily brings in its train a serious economical loss to those districts and graver international complications to China.

Thus, China's proposals may be divided into two sets—one on the Manchurian questions and the other concerning Mongolia and Ili.

The former set is included in II., III., V., VI., and VIII., involving Manchurian evacuation, the restoration of the land and mines illegitimately seized, and also the opening of Manchuria to international trade, to all of which Russia has agreed with Japan at New Portsmouth. Not only simple justice to the abused China, but also the obligations of sacred promises to Japan bring down double pressure on Russia to accept China's demands in their entirety.

Any failure on Russia's part in fulfilling her promises would be offering a gross provocation to Japan, who, seeing China's inability to protect her own rights, has compelled Russia in China's behalf to make those promises, not to mention of persisting in wronging China. Would Russia provoke Japan into another war, now peace has returned not quite 5 months since, presuming again upon her patience and exhausted condition? Supposing Japan took up the challenge and asked Great Britain to aid her, what excuse could her ally advance to decline it? Would it be that time was not yet ripe neither was the provocation serious enough to justify a war—China alone being the direct sufferer who herself has many national sins to answer for?

At any rate, a fresh national crime in the form of breaches of her engagements that deserve punishment sooner or later would be charged against Russia. On the other hand, the disastrous consequences to China of another submission to Russia would be as sure as fatal, resulting in nothing less than a wholesale partition of her vast empire. China cannot be blind to the bare fact that there are other Powers who would forthwith follow Russia's is lucrative example at China's expense in other parts of the Empire, tearing it up into shreds in no time. If she dared hope to prevent the general collapse then, she must first be able to carry those strong points with Russia on Manchuria affairs, that have already been more than half won by Japan's superhuman efforts.

COULD NOT CHINA ENLIST SUFFICIENT SUPPORT NOW from Great Britain, the United States, and Japan, the three Powers that openly stand for the preservation of her territorial integrity, enough to successfully offset Russia's bluffing obstinacy, when, to quote from the issue of our esteemed contemporary the "Peking and Tientsin Times," there is much indignation in diplomatic circles there (at Peking) that Russia has refused almost all the Chinese proposals while herself making unreasonable demands, with no regard to the Treaty of Portsmouth, "*how could China dream of securing an effectual intervention by those Three Powers, when too late for human help the final catastrophe had come over her head like an avalanche?*"

The present is a moment for China, more critical, if possible, than on the eve of the Japan-Russia War.

For, then Japan's very existence having been at stake, she could not help fighting a war on her own account as well as China's. However, the circumstances being changed, China cannot count upon Japan to plunge into a second, just at this juncture when the latter can afford to wait and badly needs rest, too. In short, if China could safely depend upon Japan to fight her own war then, she must now rely upon her own resources to put finishing touches upon the work of her salvation so to make it complete. It is a minor task, nevertheless her inability to perform it *in a most thorough manner* would forever seal her fate.

We cannot too strongly emphasize the very gravity of the present crisis, and trust that this aspect is clearly appreciated by those enlightened statesmen of China in whose hands her destiny is entrusted at this most critical moment.

時刻

唐山至天津　上六、一二　上一一、二八

塘沽至北京　上六、〇〇　下一二、〇六

天津至北京　上一二、〇〇　下五、二〇

山海關至北京　上八、〇〇　下六、四五

天津至山海關　上六、二五　下六、二一

唐山至山海關　上六、〇〇　上一一、五八

山海關至營口　上七、〇五　下四、五五

溝邦子至新民　上三、〇〇　下六、五七

遼陽　發　六、二三　奉天　着午後　一二、〇六　上り列車　發　七、二〇　奉天　發午前　一一、〇〇

驛名　發着時刻　大連　發午前　七、三〇　旅順　着　一〇、四九

上り列車　營口　發午後　十〇、二五　大石橋　着翌前　一二、二〇

天氣豫報

昨日の氣溫　最高溫度二十六度四　最低溫度六度四

昨年との比　低五度九　高低七度七

營口旅館料理店案内（いろは順）

旅館 第一營口ホテル 元神廟街九十六號

旅館 第二營口ホテル 河岸通り

料理 第三樓 元神廟街三十二號 店主 粕屋忠兵衛

料理 入船亭 永世街百八十三號 谷初次郎

旅館 日營ホテル 河岸通り 店主 井上源吉

料理 東京館 永世街八十六號 店主 村上京四郎

旅館 東茂旅館 西北街百七十三號 正金銀行西三程

料理 沖の島 永世街百六十五號 店主 中川彌三郎

料理 吉野亭 永世街八十六號 店主 坪田正好

旅館 高砂ホテル 料理 高砂亭 西北街 店主 片山小みつ（電話一四五番）

旅館 竹村館 永世街二十二號（電話五二） 店主 麻田久二

旅館 大和館 永世街十一號 店主 前田九一郎

料理 滿洲樓 南永世街第十號 店主 直塚勝一

料理 萬梅 豊濟門街第百〇四號 店主 田島彌助

料理 まんなをし 永世街字二本町二百五十九号 元吉田屋跡 店主 和田常松

京東 生蕎麥一式 東庵 元神廟（電話百五十九）

旅館料理 金城ホテル 永世街百六十六號 第二金城ホテル 永世街百六十六號 店主 齋藤富次郎

料理 醉花園 旅館 澁谷旅館 永世街百二十七號 店主 澁田留吉

料理 喜樂亭 營口元神廟街

旅館 東雲旅館 永世街七號 店主 谷口今朝太郎

營口軍政署御用旅館 東雲 主任 谷口今朝太郎

さるそば 第一更科 營口元神廟街
さるそば 第二更科 永世街鶴の湯角

御料理 柳亭 叮嚀專一 豊濟門街二三 店主 玉岡益人

御料理 一力 並ニ溫泉 營口永世街 店主 堀万助

和洋料理 本店 松月亭 營口元神廟街一四三号

和洋料理 御旅館 支店 滿洲ホテル 遼陽西街西門一一七号

遼陽旅館料理屋案内

旅館料理業 營口ホテル支店 主任 井上源吉

御料理會席 菊水館 主任 朝枝園提

旅館西洋料理 遼陽館 主任 永瀬宇吉

旅館料理業 公陽館 主任 宮川秀基

御料理會席 末廣屋 主任 山根初之亟

御料理色々應御注文 凱旋亭 主任 古谷庄太郎

旅館御料理 遼塔ホテル 主任 木村常吉

遼陽兵站司令部指定ホテル 遼陽倶樂部 營口東雲館支店 主任 谷口今朝太郎

會席 御料理 玉家 主任 西野治三郎

御料理會席 來々亭 主任 石田清

撫順炭大販賣 多少に不拘御用命被仰付度願上候 金城館販賣部

特別室落成 營口金城ホテル旅館部

藝妓仲居 新來 金城館料理部

奉天小西門外 會席御料理 高等御旅館 金城館

旅館 富喜樓
室内は極清潔防寒之設備あり 鐵嶺驛へ汽車到着毎に日本人の案内者出張致し居候
鐵嶺城東門外南へ一丁余 南大街 樓主敬白

御旅館 豐陽館 上海（電話一〇六番）
日本郵船會社荷客取扱 歐米汽船乘船取扱 館主 米田藤吉

歐米各國最新流行形 西海洋服店 永世街一四一（森病院三軒目）（電話百二十七號）

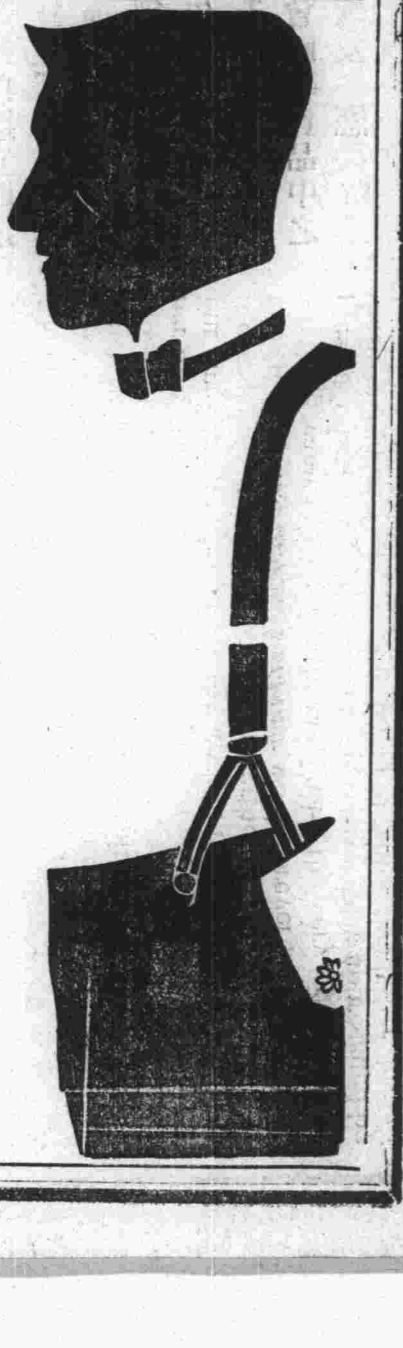
さ料理 滿月 平の山（電話…） 滿月支店 平の山（元都樓跡） 店主 吉本勝惠

和洋會席御料理
一弊店の特色は座敷廣くして大宴會に適當なり宴會の時は舞台に造附且又會費等は特に割引大勉强仕候
二奉天支店も本店同樣に大勉强仕候間御光來被成下度候
營口永世街二本町 日本館本店（電話百三十番）
奉天小西門外大十字街北入橋町 日本館支店（電話十九番）
各位樣

●本日午后六時ヨリ二本町松榮座ニ於テ
●活動大寫眞（日俄戰況幷ニ餘興元祿踊等種々）

旅館料理屋に對する酒肴料其他不拂の御方は此際御拂込み相成度萬一督促再三に及ぶも尚ほ不拂の御方は其姓名を掲げ新聞紙を以て請求可仕候間豫め御承知相成度右は同業者協議の上及廣告候也
營口旅館料理屋同業組合

一關内外蘆漢鉄道貨物運輸 但シ營口新民屯間ノ鐵道輸送ハ特ニ充分ナル御便利ヲ圖リ可申候
一海關手續 事務取扱 但弊店事務所及郵船會社代理店内派出員ニテ事務取扱
一鈔關手續 但西營口鈔關裏手東玉昌方ニテ事務取扱
一船舶貨物取扱
一其他水陸貨物運輸ニ關スル諸業
右營業仕候間陸續御用仰付被下度願上候
營口西北街第二七二號 大淸通運公司 營口支店



新着！
舶來ヅボンツリ、新形ネクタイ、流行リボン、
雛人形東京市松、はこせこ、鏡入、
莨入、蒔繪莨入、手文庫、金庫、支那鞄、柳行李、
元祿模樣、絹首巻、ハンカチーフ、花簪、
鶴香水、ばら白粉、櫛、刷毛、理髪道具類、
春模様新柄友染、双子縞、銘仙、裏地品々、
營口 加藤洋行（電話八十番）

清國營口二本町二五五號
發賣 料木 標子 木板
塩川商會 主任 鹽川峰吉（電話一三六番）
遼陽小西門内 鹽川商會

●建築用材北海道産松大角（自廿五尺至三十尺）二万立方尺餘 外に電柱用材杉丸太長（自二十尺至三十尺）八千本
右之品多少に不拘特別安價を以て差上候條御入用の御方は御來臨被成下度候也

○上等石炭 一噸に付 銀十六圓
○上等日本米 一石に付 銀二十圓
○板材木 ○木炭
○亞鉛板 ○洋釘
○干鱈魚 ○石灰
御小賣致候間御用の御方は御通知次第直に持参可仕候也
喜久洋行 永世街八十號（電話百五十二番）

大連 東洋ホテル 大連鐵道停車場附近民政署前兒玉町

發賣 標子 木板 料木
營口青堆子 清水寧木局

爲替相場（三月三日）
日本向 一百圓 五十錢（軍票百圓に付）
上海向 一七十一兩（同）
天津向 一百〇二圓二十五錢（百弗に付）
芝罘向 天津向に全

日本品最近物價表 加藤洋行
紙類
一半紙 一〆 二圓九十錢より三圓廿錢
一美濃紙 全 七圓五十錢
一状袋 二十枚續 三錢二厘以上四錢
一全 百枚 十三錢以上十八錢
室内装飾品及寢具 矢野洋行
一蒲團 三枚組 六圓九十錢以上六十五圓
一疊 薄縁 二圓六十錢以上三圓
一麻縁 十枚 八圓
一綿縁通 一疊敷 三圓

MANCHURIA DAILY REPORT.
Subscription 4 cts. a copy
80 cts. per month.

本紙定價
一枚ニ付 銀四仙
一ケ月前金 銀八十仙
半ケ年前金 四弗八十仙
一ケ年前金 銀九弗六十仙